

『涙道閉塞の治療戦略』

座長のことば

近年、涙道内視鏡の出現により閉塞部位が可視化され、内視鏡プローブ先端による閉塞部位の穿破や、より正確なチューブの留置が可能となり、涙道疾患の診断・治療は格段に進歩しました。また、日本涙道・涙液学会の立ち上げや、涙管チューブ挿入術における涙道内視鏡加算などにより涙道領域への注目度も高まっています。

白内障手術をはじめとした内眼手術を行う術者にとって涙道閉塞による涙嚢炎は、手術の際に術野が汚染される可能性があることから避けたい疾患のひとつです。また抗生物質の投与が長期に渡ると耐性菌を誘導することにもなるため、根本的な治療が求められます。さらに、流涙症の原因は多岐にわたっており、外来で診療する頻度も決して少なくありません。流涙症では我々が想像するよりも強い不快感を伴い、視機能をも障害することが分かっています。したがって、的確で迅速な診断および治療が求められています。

本セミナーでは、涙道内視鏡やシースを用いた涙管チューブ挿入術について杉本学先生に、顔面に傷を残さず骨切除量も少なくすむDCR鼻内法について宮崎千歌先生に、眼外傷の代表施術例でもある涙小管再建術について廣瀬 浩士先生にお話しいただきます。先生方には豊富な経験をもとに最新の治療方法について解り易く解説して頂きます。これから涙道治療を始めようとする多くの術者にとって、取組みのきっかけとなれば幸いです。

座長



井上 康先生
Yasushi Inoue
医療法人康誠会
井上眼科 院長

演者

『涙管チューブ挿入術』

杉本 学先生
Manabu Sugimoto
医療法人 すぎもと眼科医院 院長



『DCR』

宮崎 千歌先生
Chika Miyazaki
兵庫県立塚口病院 眼科部長



『涙小管再建術』

廣瀬 浩士先生
Hiroshi Hirose
国立病院機構 名古屋医療センター 眼科医長

